
赤髪の名探偵

堂餓鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤髪の名探偵

【Nコード】

N6119E

【作者名】

堂餓鬼

【あらすじ】

本編の主人公は、暗い過去を持っている為、少々性格がひねくれている。そんな彼が、次々と難事件を解決していく。果たして今回も、事件を解決出来るのか？

登場人物紹介

・【藤森 真治】過去に、何度か事件に巻き込まれ、その度に事件を解決している名探偵。別名、赤髪の名探偵。 度か事暗い過去を持つている為、性格はひねくれている。

・【橘 鳴海】星陽大学に通う2年生。ある事件をキツカケに真治と知り合う。毎回トラブルを持ち込んでくるトラブルメーカー。意外と男子に、人気あり ・【袴田 勇作】警視庁捜査1課の刑事。別名、鬼警官。

これでも一応警部。

・【長谷川 健児】警視庁捜査1課の平刑事。袴田の部下。ある事件をキツカケに橘と知り合い一目惚れしてしまう。

・【渡辺 祐輔】星陽大学に通う2年生。藤森、橘と同級生。・

【斉藤 美由紀】星陽大学に通う2年生。橘とは親友で、小、中、高、大と学校が同じで、何時も大概一緒に居る。大の仲良し。警視庁捜査1課の刑事。別名、鬼警官。 怒りやすい性格だが、意外と 頼りになる。これでも、一応 警部である。

・【長谷川 健児】警視庁捜査1課の平刑事で、袴田の部下 ある事件で、橘と知り合い、 一目惚れしてしまう。

・【渡辺 祐輔】星陽大学に通う2年生。藤森、橘と同級生。意外とお調子者。藤森の理 解者でもある。

・【斉藤 美由紀】星陽大学に通う2年生。橘とは親友で、小、中、高、大と学校が同じ 大の仲良し。何時も大概、一緒に居る。

FILE:00 プロローグ

『何で、私が逃げてるの?』森の中を私は、必死に走った。

既に、息は上がっていたが、そんな物は関係なかった。ただひたすら、逃げ回っていた。

『何で、私がこんな目に遭わなくてはいけないの?』そう思いながらも私は、必死に走った。仕事が終わりに、普通に家に帰っていた筈なのに……。急に、頭が激痛に襲われた。触ってみると、何故か濡れていた。

不意に、誰かの視線を感じ私は振り向いた。そこには、鉄パイプを持った男が立っていた。私は怖くなり、必死に逃げた。そして、気付くと森の中を、走っていた。

既に、辺りは闇に包まれている。それでも、走るのは止めなかった。もし走るのを止めてしまったら、私は間違いなく、殺されてしまう……。

『そんなのは嫌だ。』そう思った瞬間、石に足がつまづいて転んでしまった。

直ぐ後に気配を感じ、振り向く。鉄パイプを持った男が立っていた。そして、鉄パイプを振り上げる。その瞬間、『殺される』と思い、目を瞑る。

頭に、痛みが走り体の力が抜けていく。意識が遠くなり、一粒の涙を流し倒れた。

男は、不適な笑みを溢し、倒れている女に近付いていった。

微かにまだ、息はある。

男は、倒れている女を担ぎ上げて歩いていく。そして、女を崖下へと投げた。

女は、崖にぶつかりながら落ちていく。そして、地面に激突した。頭からは、大量の血液を流している。

男は、崖下に落ちた女を見て、また不適な笑みを溢し、その場を立ち去った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6119e/>

赤髪の名探偵

2010年10月12日01時58分発行